

## IATDMCT（国際 TDM 学会）入会のお願い

理 事 長

第 15 回国際 TDM 会議会長・準備委員長  
国際交流委員長

上野 和行

谷川原 祐介  
増田 智先

会員の皆様方へ

日頃より日本 TDM 学会の活動にご支援いただきありがとうございます。

日本 TDM 学会は、近年 IATDMCT (International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 国際 TDM 学会) との連携を強化しております。その目的は、日本の TDM 研究を世界に向けて発信し、同時に諸外国の TDM および Clinical Toxicology 研究とプラクティスを学び、相互の学術交流を深めることによって、個別化投薬を世界の医療に根付かせ、よって人類の福祉と健康に貢献することにあります。

最近の注目すべき動向として、

- 1) 谷川原祐介理事が、アジア人として初めて IATDMCT の Secretary に就任しました。
- 2) 第 15 回国際 TDM 会議の日本招致に成功しました (2017 年 9 月、京都で開催)。
- 3) IATDMCT の学術雑誌「Therapeutic Drug Monitoring」の Table of Contents を、本学会機関誌「TDM 研究」の誌面に掲載します。
- 4) 今後 5 年間、IATDMCT 会員でもある日本 TDM 学会会員に対して年会費の一部を補助します。

などが挙げられます。

国際交流を促進するため、とくに 2017 年の国際 TDM 会議開催国として、日本 TDM 学会会員の皆様には是非とも IATDMCT への入会をお願いいたします。

会員になれば学術雑誌 Therapeutic Drug Monitoring を無料で web 購読できるメリットがありますし、Young Scientists など種々の committee にも参加でき志を同じくする世界の仲間と交流できます。IATDMCT 年会費は 120 米ドルですが、40 歳以下は 80 米ドル、30 歳以下は 30 米ドルと若手会員に対する割引制度があります。現在の IATDMCT 会員数は 65 か国から 526 人です。

IATDMCT への入会手続きは web 上で行います。その方法を日本 TDM 学会ホームページに分かりやすく掲載していますのでご参照下さい。

<http://jstdm.umin.jp/index.html>

会員の皆様方のご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

# Therapeutic Drug Monitoring 誌（国際 TDM 学会発行の学術雑誌） の Table of Contents 掲載について

編集委員会委員長 奥田 真弘

会員の皆様方へ

日頃は、日本 TDM 学会の活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、日本 TDM 学会は、IATDMCT (International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 国際 TDM 学会) との連携を深めるため、IATDMCT の学術雑誌である「Therapeutic Drug Monitoring」の Table of Contents (TOC) を、本学会の機関誌「TDM 研究」の誌面に掲載し、本学会会員へ情報提供することに致しました。

「Therapeutic Drug Monitoring」誌は隔月発行で、2014 年分の発行はすでに第 36 巻 1 号から 4 号まで (February, April, June, August) が確定しています。本号ではこれらの TOC をまとめて掲載することとし、今後も本誌の発行時期までに確定した TOC を順次掲載していく予定です。

「Therapeutic Drug Monitoring」誌は、TDM 領域における世界のトップジャーナルであり、本誌への TOC 掲載を通じて TDM 領域の最新研究成果へのアクセスが向上すると期待できます。日本 TDM 学会は TDM 領域の学会として世界最大規模であり、会員の学術活動も大変活発です。また、2017 年秋には京都（国立京都国際会館）で第 15 回国際 TDM 会議の開催が決定しています。日本から TDM 研究成果を世界に向け発信し、京都での国際 TDM 会議を成功させるためにも、是非とも「Therapeutic Drug Monitoring」誌への投稿をご検討ください。なお、IATDMCT の会員になれば、無料で「Therapeutic Drug Monitoring」誌の掲載論文をオンラインで閲覧できるようになります。詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.iatdmct.org/membership.html>

最後になりますが、本学会発行の「TDM 研究」誌も、従来どおり和文・英文の投稿論文を受け付けています。掲載論文は、優秀論文賞（大日本住友製薬賞）の選考対象となり、優秀論文は 1 年に 1 回開催される学術大会で表彰されます。日常的な研究成果を論文にまとめ、是非とも「TDM 研究」誌へご投稿ください。